

国立大学法人 九州工業大学
イノベーション推進機構 NEWS

2017



HPマップ ⇒ <http://www.kyutech.ac.jp/information/map/>

—— イノベーション推進機構 産学連携・URA領域（戸畠）——

〒804-8550 福岡県北九州市戸畠区仙水町1番1号 コラボ教育支援棟2階

TEL. 093-884-3485 FAX. 093-881-6207

E-mail. office@ccr.kyutech.ac.jp

つなげる力が創る未来



—— イノベーション推進機構 産学連携・URA領域（飯塚）——

〒820-8502 福岡県飯塚市川津680-4 インキュベーション施設1F 103

TEL. 0948-29-7895 FAX. 0948-29-7899

E-mail. iizuka@ccr.kyutech.ac.jp

—— イノベーション推進機構 産学連携・URA領域（若松）——

〒808-0196 福岡県北九州市若松区ひびきの2-4

TEL. 093-695-6150 FAX. 093-695-6148

—— 研究協力課 産学連携係 ——

〒804-8550 福岡県北九州市戸畠区仙水町1番1号 コラボ教育支援棟1階

TEL. 093-884-3085 FAX. 093-3020

ご挨拶

平成 27 年度に衣替えしたイノベーション推進機構は、産学連携・URA 領域と戦略的研究推進領域を並置し、後者においては、本学の強みを活かす戦略的研究ユニットの選定が完了し、体制が整いました。研究企画・立案から産官学連携までシームレスに支援し本学の研究力を一層高めるとともに、成果を還元して社会貢献に繋げてまいります。



イノベーション推進機構は本学の研究レベルを向上させ今後の本学の研究の方向性を決定する戦略的研究ユニットと、本学の基礎研究、応用研究の成果をスムーズに製品に結びつける産学連携を一層強化することを目的とした産学連携・URA 領域からなっています。本学の研究成果が明るい未来作りに貢献できるように二つの領域が連携し、チームワークよく活動しています。九州工業大学の研究成果、産学連携に興味ある方はぜひ一度お訪ねください。

国立大学法人九州工業大学
理事・副学長(研究・産学連携担当)／イノベーション推進機構長

早瀬 修二

産学連携・URA 領域には研究推進支援部門、外部資金獲得支援部門、産学連携部門、知的財産部門、国際部門、ベンチャー・技術移転支援部門が設置され、部門間を密に連携させて、シーズ発掘から知的財産権利化・技術移転に至るまで切れ目なく研究者を支援する体制が整っています。第 3 期中期目標・計画に謳われた共同研究増強、知財活用、国際共同研究機会増加や地元企業との連携強化を着実に実行して、産学官連携活動を活性化する所存です。戦略的研究推進領域や学内の産学連携推進をサポートする体制を強化していきます。是非、ご期待ください。

国立大学法人九州工業大学
イノベーション推進機構／産学連携・URA 領域長
戦略的研究推進領域長(兼務)(工学研究院電気電子工学研究系 教授)

三谷 康範



CONTENTS

01 組織紹介	01-02
02 産学連携の制度	03-05
03 九州工業大学の概要	06
04 数字で見る九工大の産学連携	07
05 研究内容のご紹介	08-10
06 トピックス	11-13
07 事業活動報告	14-25
08 九工大の装置、機器利用案内	26

01
職員紹介

Staff

01

部門の紹介

産学連携部門(部門長:本田剛士)



主な業務

- 産学官連携事業の企画及び実施
- 民間機関との共同研究及び受託研究の推進並びに外部研究資金の獲得
- 民間機関等からの技術相談対応、学術研究情報の提供
- 地域貢献・産学官連携活動の強化

産学連携の窓口として、産業界からの問合せや技術相談に対し、専門のコーディネーターによる相談対応やマッチング、共同研究や受託研究の実施に向けた支援等を行っております。また、大学と地域・産業界の顔の見えるネットワークづくりとして九州工業大学技術交流会(キューテックコラボ)を組織し(会費無料)、2ヶ月に一度、原則第三木曜日16時半から大学の研究シーズ等を紹介するセミナー「三木会(さんもくわい)」を開催しています。ご相談は隨時受け付けておりますので、最初の窓口としてぜひご活用ください。

国際部門

主な業務

- 海外の大学、研究所及び企業等(以下、「海外研究機関等」という。)との連携並びに協力体制の構築
- 海外研究機関等との国際的な活動の企画立案及び専門的見地からの支援
- 各種国際契約・協定締結に伴う係争を回避するためのリスク管理体制の構築
- 学内外との連携による国際産学連携イベント等の開催

国内有数の工業地帯を有する北九州にある本学は、設立より産学連携に力を入れるとともに、国際的な共同研究や受託研究を積極的に行ってきました。グローバル化が進む中、海外機関との研究・産学連携活動を安全に推進するため、2010年に国際部門が旧産学連携推進センターに設置され、現在に至っています。国際的な共同研究・受託研究、機密保持契約に加え、ここ数年海外大学との教育プログラムにおいても、契約の危機管理が重要になってきています。

分室の紹介

飯塚分室(分室長:梅田政信)

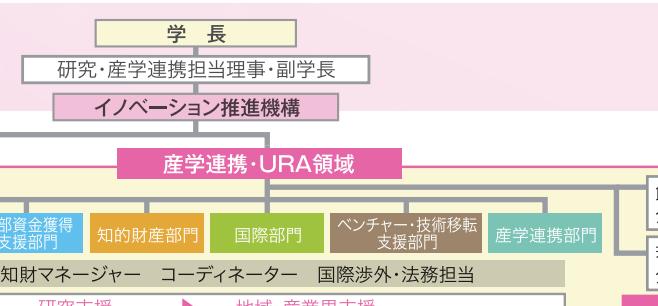


若松分室(分室長:森江隆)



産学連携・URA領域 飯塚分室は情報工学部を擁する飯塚キャンパス内に設置され、主に情報通信技術を基盤とした教育研究活動と産業界や地域社会のニーズを結び付ける役割を担っています。情報通信技術は、あらゆる分野のものづくりやサービスに欠かせないものとなっており、飯塚キャンパスで生まれるソフトウェアや特許等の知財に対する期待は、今後ますます高まるものと予想されます。飯塚分室関係者一同、その期待に十二分に応えられるよう取り組んで参りますので、是非ご活用ください。

イノベーション推進機構の組織



コーディネーター紹介 (TEL: 093-884-3485 E-mail: office@ccr.kyutech.ac.jp)



コーディネーター(助教)
荻原 康幸

専門分野
情報工学、ソフトウェア著作権、プロジェクトマネジメント、ベンチャー支援



コーディネーター(客員教授)
山崎 博範

専門分野
機械工学(製品開発、生産設備設計、プレス金型)



コーディネーター(客員教授)
吉田 剛

専門分野
機械工学、情報処理、ものづくり支援



コーディネーター(客員教授)
佐藤 幸則

専門分野
電気工学(磁気応用、電気機器)、知的財産



コーディネーター(客員教授)
福田 隆三

専門分野
知的財産、電子工学



コーディネーター(客員教授)
太田 範雄

専門分野
電子デバイス(薄膜形成・微細加工・分析評価)、ものづくり支援、経営計画策定



コーディネーター(客員教授)
佐藤 幸則

専門分野
電機メーカーでロボット用サーボモータの研究開発を経験後、平成3年から知財部門で調査、出願権利化、権利活用等に携わってきました。時代の変化に即応し産学連携に少しでもお役に立てるよう努力したいと思います。

URA紹介 (TEL: 093-884-3565 E-mail: ura-office@ccr.kyutech.ac.jp)



シニアURA(URA教授)
倉田 奈津子

専門分野
分析化学、電子セラミックス、産学官連携



URA准教授
白石 肇

専門分野
電子デバイス、品質工学、ものづくり



URA(地域イノベーション・エコシステム形成プログラム担当)
米澤 恵一郎

専門分野
光電子分光、有機半導体
学生時代に有機半導体分子の電子物性の本質解明に取り組み、分子科学研究所にて学術振興会特別研究員として研究に従事しました。産学連携、研究支援に関しての経験はありませんが、自身の研究経験を活かしてプログラムの円滑な推進に貢献できればと思います。北九州の地を中心とした産学官を巻き込んだエコシステム創出に貢献いたします。

知財マネージャー等紹介 (TEL: 093-884-3499 E-mail: chizai@jimu.kyutech.ac.jp)



知財マネージャー(客員教授)
石田 精

電機メーカーの研究開発部門でメカエレクトロニクス製品の研究開発に從事した後、知財部門で発明権利化等の管理業務に携わってきた経験を生かし、大学の研究成果について知的財産の分野で鋭意、取り組んで参ります。



知財マネージャー(客員教授)
堀川 恵

電機メーカーで鉄鋼や紙、フィルム等の産業用プラント電機品の開発・設計に携わり、その後工場の生産や産学連携にも取り組みました。知財管理の経験はありませんが、培ったパイプを活用し、産学官連携を担っていきます。



知財マネージャー(客員教授)
小柳 嗣雄

化学系企業で約40年に亘り、新事業や新製品の立ち上げを経験しました。専門分野はナノ材料ですが知財との関わりも多く、触媒、電池、電子と光学分野への応用を行いました。九工大の知財価値のアップに努めます。



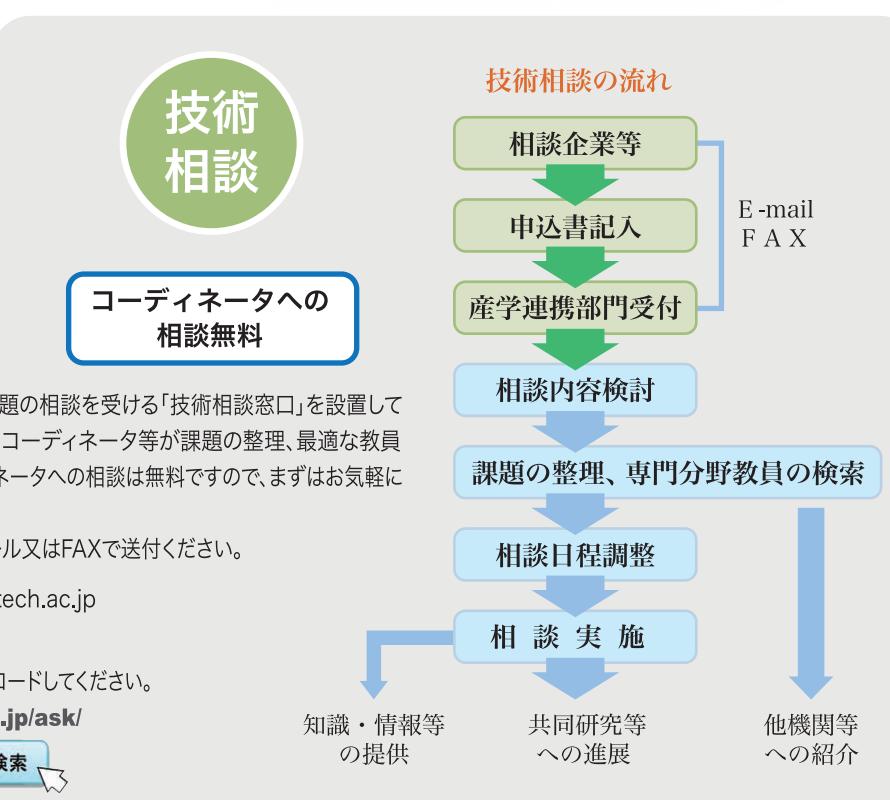
つながる力が創る未来
Kyutech
お気軽に問い合わせください

02

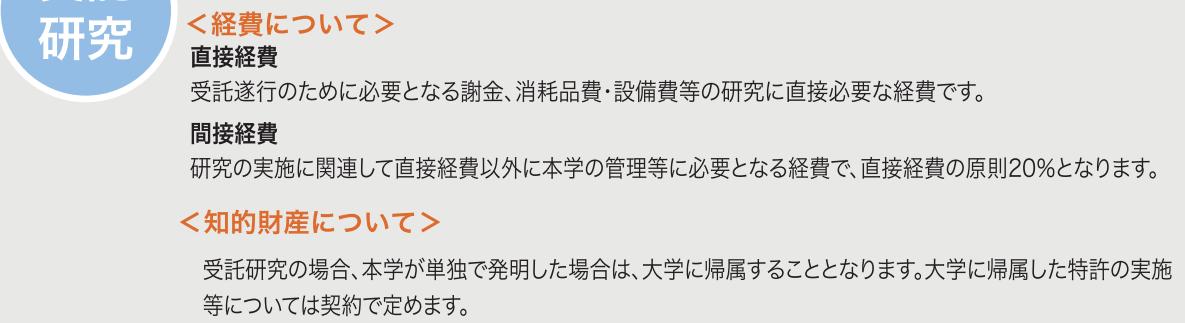
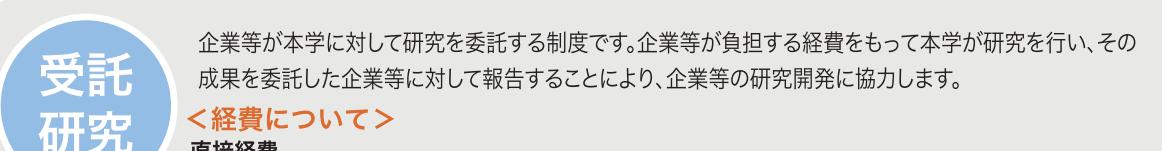
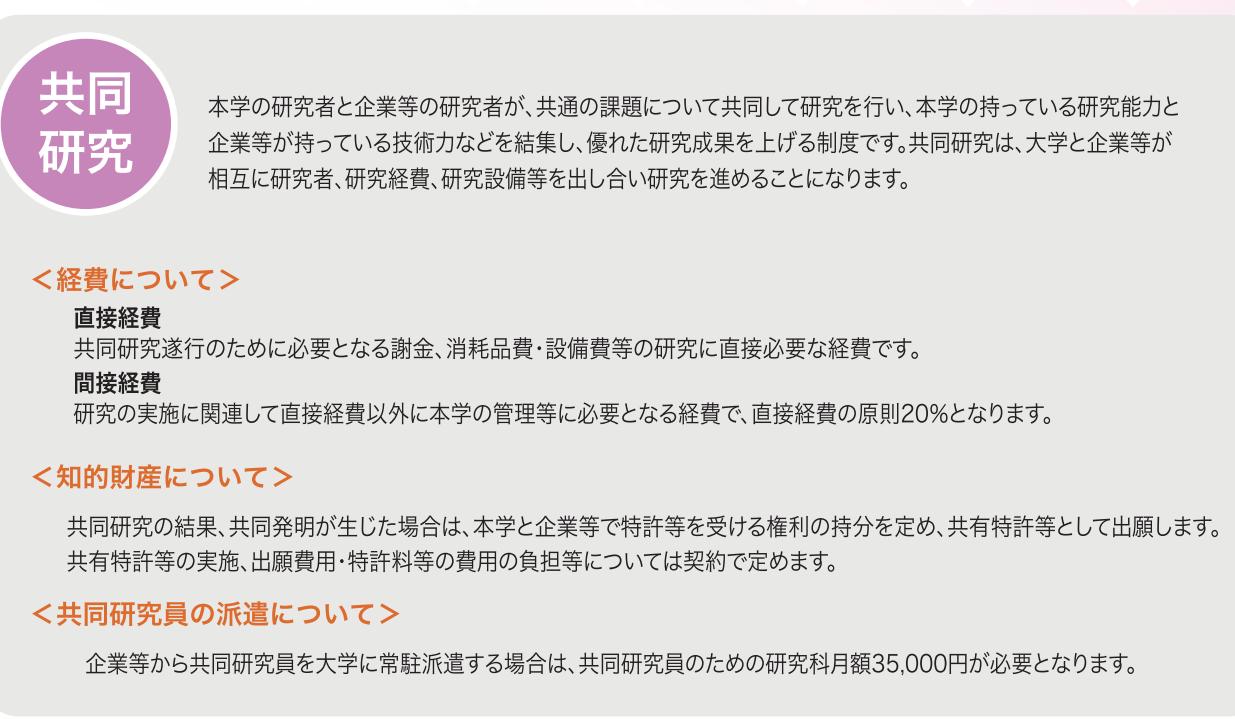
産学連携の制度

Flowchart

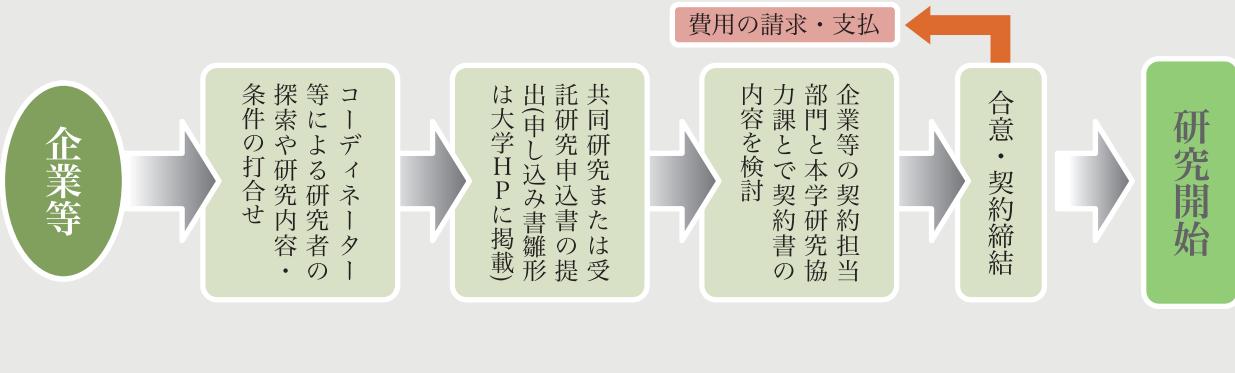
技術相談と外部資金獲得申請について



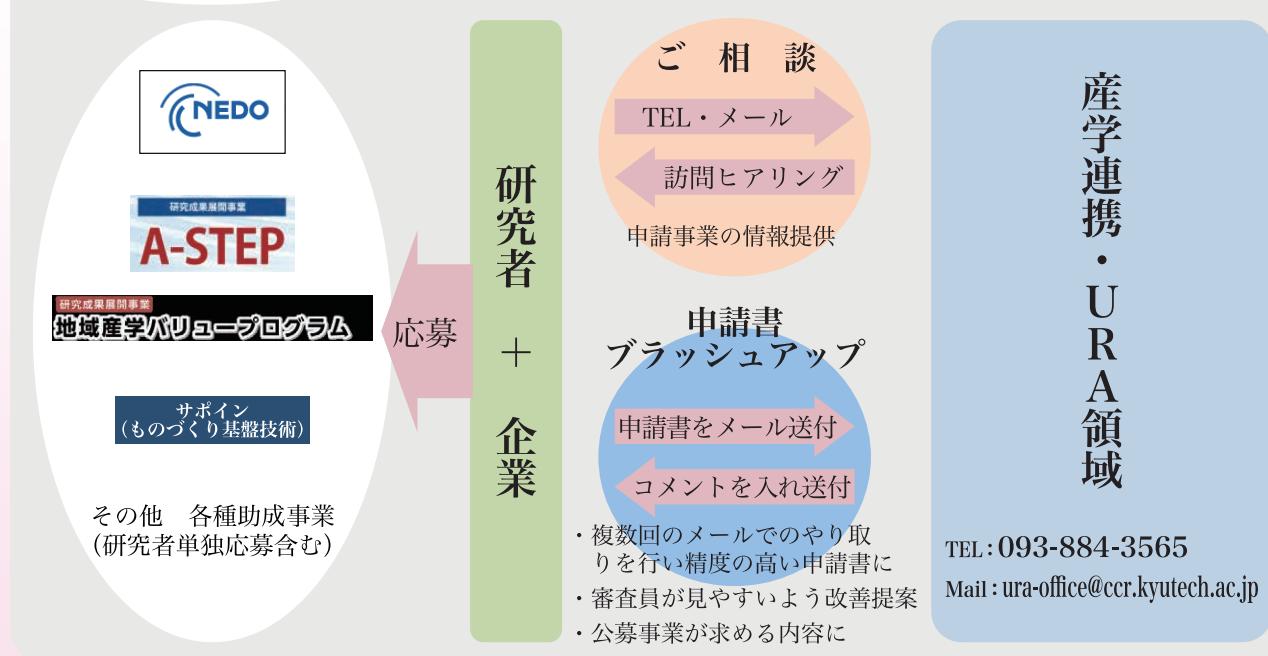
共同研究と受託研究について



共同研究・受託研究契約の手続きの流れ



外部資金申請支援の流れ



共同研究講座と学術指導制度について

共同研究
講座

企業等から共同研究費として資金を提供してもらい、大学内に共同研究のための研究組織を設置します。設置期間は、原則として3~5年の複数とし、出資企業や学内希望者等から選出された専任教員が配置されます。

学内に研究組織が設置されることにより、通常の共同研究に比べて、幅広い教員との連携、企業の事業戦略に応じたフレキシブルな研究テーマの設定、推進等が可能となります。また、所定の税制優遇措置も受けることができます。

<経費について>

直接経費

共同研究遂行のために必要となる共同研究講座教員の人工費、謝金、消耗品費・設備費等の研究に直接必要な経費です。

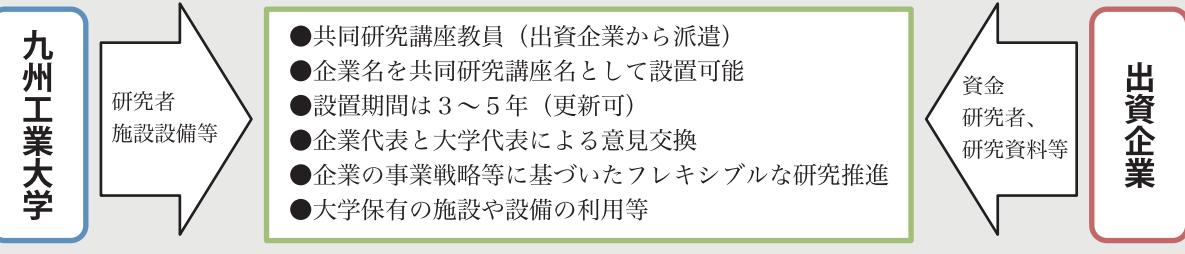
間接経費

研究の実施に関連して直接経費以外に本学の管理等に必要となる経費で、直接経費(共同研究講座教員の人件費を除く)の原則30%となります。

<知的財産について>

共同研究講座で行う共同研究の結果、共同発明が生じた場合は、本学と企業等で特許等を受ける権利の持分を定め、共有特許等として出願します。共有特許等の実施、出願費用・特許料等の費用の負担等については契約で定めます。

共同研究講座

学術指導
制度

企業等からの相談を受け、教員が、専門知識に基づいた指導、助言等を有料で行う制度です。通常の技術相談は無料ですが、より専門的な指導・助言や、継続的に指導・助言を受けたい場合等に活用する制度です。

指導料については、内容に応じて相談のうえ決定します。

<経費について>

直接経費

指導料に相当するもので、企業等と相談のうえ決定します。

間接経費

直接経費以外に本学の管理等に必要となる経費で、直接経費の原則20%となります。

その他の経費

学外で指導・助言等を行う場合の交通費・旅費については、別途、企業等にご負担いただきます。

03
九工大
概要

Overview

九州工業大学の概要

学生数（人）

	工学部/工学府 (戸畠)	情報工学部/ 情報工学府(飯塚)	生命体工学研究科 (若松)	合計
総数	2,976	2,265	412	5,653
学部生	2,305	1,826		4,131
大学院生	671	439	412	1,522

職員数（人）

教育職員総数	347
工学研究院	138
情報工学研究院	110
生命体工学研究科	41
教養教育院	26
その他	32
その他研究系職員	77
事務・技術系職員	198
総数	629

I 工学部・大学院工学府（戸畠キャンパス）

「ものづくり」の基本を備えた技術者の養成

学 部：工学部 6学科

機械知能工学科、建設社会工学科、電気電子工学科、応用化学科、マテリアル工学科、総合システム工学科

大学院：工学府

(博士前期課程) 5専攻

機械知能工学専攻、建設社会工学専攻、電気電子工学専攻、物質工学専攻、先端機能システム工学専攻

(博士後期課程) 1 専攻 工学専攻

II 情報工学部・大学院情報工学府（飯塚キャンパス）

情報を基盤に国際的に視野を持つ高度技術者の養成

学 部：情報工学部 5学科

知能情報工学科、電子情報工学科、システム創成情報工学科、機械情報工学科、生命情報工学科

大学院：情報工学府

(博士前期課程) 3 専攻 先端情報工学専攻、学際情報工学専攻、情報創成工学専攻

(博士後期課程) 1 専攻 情報工学専攻

III 大学院生命体工学研究科（若松キャンパス）

生命科学を応用するシステム技術者の養成

(博士前期課程) 2 専攻 生体機能応用工学専攻、人間知能システム工学専攻

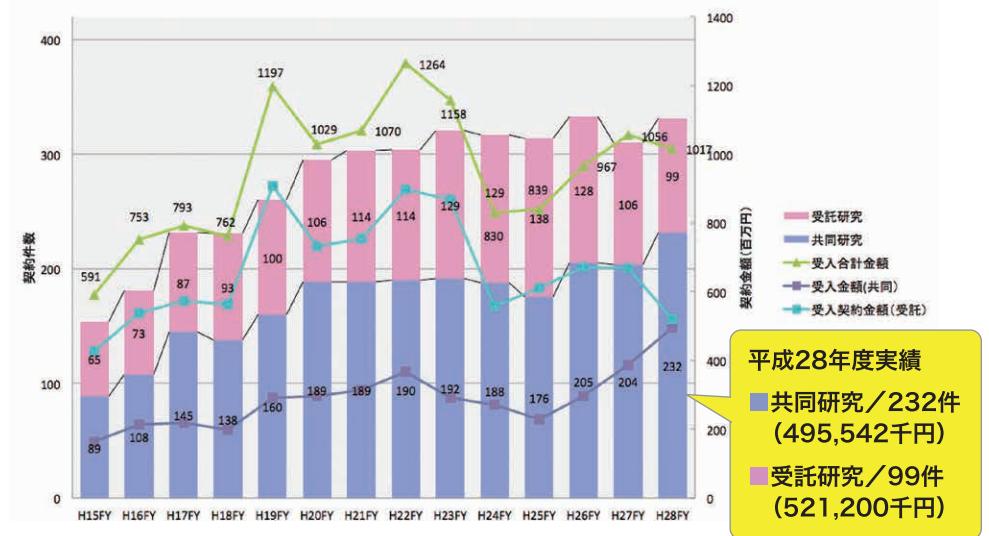
(博士後期課程) 1 専攻 生命体工学専攻

04

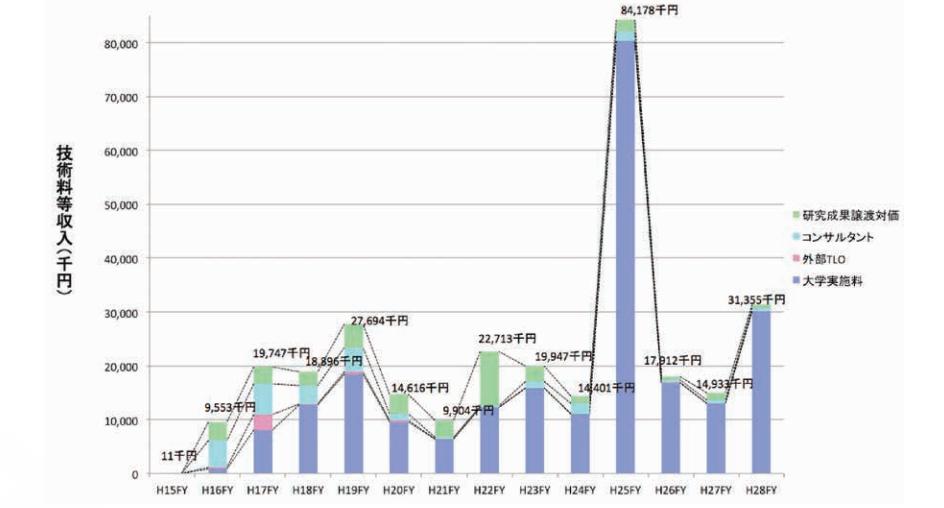
数字で見る
九工大の
产学連携Industry-university
cooperation of the kyutech
to look at the numbers

九州工業大学の产学連携実績（平成 15～平成 28 年度）

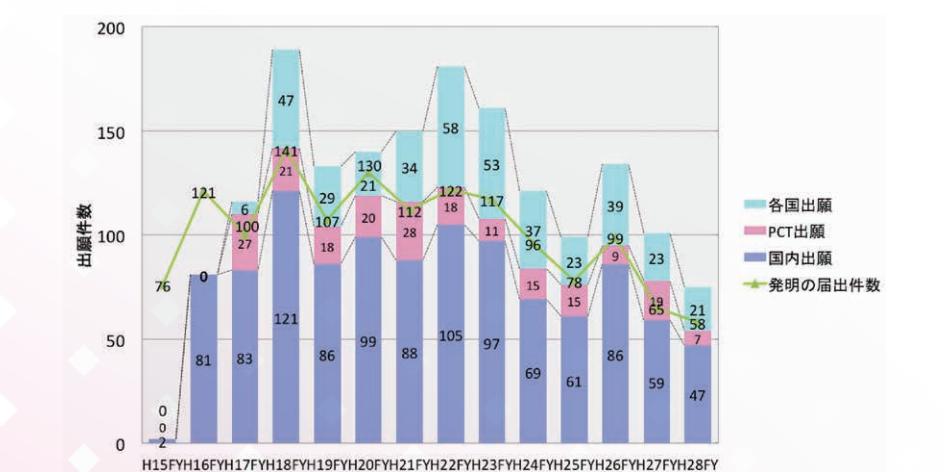
共同研究・受託研究契約実績の推移



技術料等収入の推移



発明の届出と特許出願件数の推移



05

研究内容の
ご紹介

Research introduction

重点研究センターのご紹介

本学では、環境関連工学、航空宇宙工学、高信頼集積回路、情報通信ネットワーク、ロボティクス分野や歯工学連携等、強みや特色ある研究分野において、世界的な研究拠点形成を目指した重点研究センターを設置しています。

今年度 10 月から新たに以下の 2 センターを設置します。

- ・IoT システム基盤研究センター
- ・太陽光エネルギー変換研究センター



宇宙環境技術ラボラトリー

施設長(併)工学研究院 先端機能システム工学研究系 教授

趙 孟佑

<http://laseine.ele.kyutech.ac.jp/>

宇宙に耐えるモノ作り技術の開発

人工衛星を宇宙で運用する際に地球上で考えられない難しさが発生します。例えば極端な温度差や、紫外線・放射線の影響、スペースデブリの問題等があげられます。ラボラトリーでは、外部機器からの依頼に応じて、宇宙システムの開発・設計・製作に必要な環境試験を実施しつつ、広範囲な産学官連携研究を進めています。



次世代パワーエレクトロニクス研究センター

センター長(併)生命体工学研究科 生体機能応用工学専攻 教授

大村 一郎

<http://power.kyutech.ac.jp/>

低炭素社会へのキーデバイス: パワー半導体の研究開発

省エネルギーの推進および電力の高度利用技術、自然エネルギーの活用等による低炭素社会の実現に貢献するパワー半導体を中心とした次世代パワーエレクトロニクス技術の研究、開発を実施しています。



- ①究極の省エネを目指した極限パワー半導体デバイスの開発
- ②パワー半導体の故障原因に迫るリアルタイム・モニタリング技術の開発
- ③超小型化を実現する集積化パワーエレクトロニクスの開発
- ④超小型化を実現する集積化パワーエレクトロニクスとデジタルネットワークとの融合

高い性能と量産性を兼ね備えた新しいタイプのシリコンパワーデバイスの研究を行っています。量産性の高いシリコンエクソジオをベースとした極限性能を実現する新しい概念を取り入れる事で、低損失、高スイッチング速度を実現し、さらに高電流密度化によりチップコスト削減を目指しています。



社会ロボット具現化センター

センター長 特別教授

<http://www.lsse.kyutech.ac.jp/~sociorobo/>

環境を守り生活を助ける技術、社会に貢献するロボット

社会ロボット具現化センターは、社会で働く様々なロボットを創出することを目的として、ロボット関連技術の研究成果を活用してロボット導入による新たな可能性を提示し、ロボット市場の開拓をおこない、新たな社会ニーズを作り出してロボットによる解決策を提示します。そのため社会ロボット創出コンソーシアム群や働くロボット創出研究開発拠点構築を推進しています。



ディペンダブル集積システム研究センター

センター長(併)情報工学研究院 先端情報工学研究系 教授

尾知 博

<http://aries3a.cse.kyutech.ac.jp/~disc/index.html>

安全・安心な高度情報化社会の実現へ貢献する高信頼・高品質な次世代集積システムの創成

高信頼・高品質な次世代集積システムを創成することによって、安全・安心で持続的展開可能な高度情報化社会の実現に貢献するための基礎技術及びその応用技術の研究活動を推進しています。

- 国際規格(IEEE無線LAN規格(11ac))への採抲実績
- 世界初の、素子ばらつき等の影響を受けないレシオレスRAMの開発
- 世界初のLSIテスト時電源ノイズ低減技術や劣化検知技術の開発
- 多数の特許出願と特許登録、活発な事業化活動

- 世界に先駆けた研究でイノベイティブな技術の開発
- ディペンダブル集積システムの世界的研究拠点の形成
- 戦略的な特許出願による質の高い知財の確保
- 国内外の大学、研究機関、企業との共同研究の実施
- 大学発ベンチャー企業による事業化の推進

- 英語のみで修士課程修了可能なカリキュラムの整備
- LSI設計・テスト関連の国際学生コンテストの主催
- アジアにおけるLSI設計・テスト教育拠点の形成
- 海外の大学・研究機関との国際交流協定の締結
- 日常型国際研究教育プラットフォームの構成



ECO LOGY NOMY FITTING
Research Center for Advanced Ecotecnology
Application of Ecotecnology

先端エコフィッティング技術研究開発センター
センター長(併)生命体工学研究科 教授
春山 哲也 <http://www.lsse.kyutech.ac.jp/~ecofitting/bc/>

地球的課題を解決する科学技術を提供

コンセプトリーディングなセンター協働体制により、いくつもの異分野協働の研究ユニットを形成。「CO₂の資源化」「空気と水の資源化」「有機太陽電池」「汚泥の資源化」など、地球的課題に対して、科学技術による独創的かつ効果的なソリューションを提供する研究を展開しています。その成果により、国から競争的研究開発事業を複数受託し、産業界とも連携した研究開発を展開しています。

CO₂排出削減の義務
コスト削減
エネルギー課題
省エネルギー
食糧問題

エコフィッティング技術研究開発センター

エコタウン実証研究センター
センター長(併)生命体工学研究科 教授
白井 義人 <http://www.lsse.kyutech.ac.jp/~ecotown/>

北九州の環境リサイクル技術を世界へ!!

都市型バイオマスの有効利用と新しい循環社会の実現を具体的な目標に、九州工業大学を中心としたネットワークの中で開発された新技術を社会に普及させるため、一般生活者の生の声を研究にただちに活かす、他に例のない実証研究を推進しています。

- 竹資源・バームバイオマス資源の有効利活用
- ポリ乳酸のケミカルリサイクル、乳酸オリゴマーの有効利活用

エコタウン実証研究センター(北九州市)
同センター分室(八女市)

マレーシア・スーパー・サテライト・キャンパス: MSSC
バイオリファイナリー・センター(マレーシア・ブルラ大学: UPM)

国際連携

先端金型センター
センター長(併)情報工学研究院 機械情報工学研究系 教授
樋原 弘之 <http://cim.mse.kyutech.ac.jp/kanagata/index.html>

世界最高レベルの研究開発を通じた金型産業におけるものづくり拠点

自動車産業が集積する地域性において、先端金型技術の創生と、産業界との連携に基づく高度金型技術者の育成と技術移転を目指します。

研究内容

- CAE技術に基づく金型設計
- 金属3次元造形法の研究開発
- 感性デザインに基づく製品化研究

九州工業大学
先端金型センター
技術・人材ニーズ
新技術開発
人材育成
産学協同研究
北部九州金型産業界
取引の拡大
自動車関連 半導体産業他企業

ネットワークデザイン研究センター
センター長(併)工学研究院 電気電子工学研究系 教授
池永 全志 <http://www.ndrc.kyutech.ac.jp/>

人間の活動を支え、助けるパートナーとしての次世代ネットワークのデザイン

「人を中心としたネットワーク」を目指し、ネットワーク基礎技術およびネットワーク利活用技術、さらには人間の活動と関連する様々な分野の研究者が連携・融合し、産官学連携や分野間交流を重視しながら、研究活動を推進しています。

NDRC
ネットワーク基礎研究
高速通信技術
モバイルネットワーク技術
ワイヤレスネットワーク技術
ネットワーク管理・制御技術
Network Design
Inspired by Human Activity

バイオマイクロセンシング技術研究センター
センター長(併)工学研究院 物質工学研究系 教授
竹中 繁織 <http://takenaka.che.kyutech.ac.jp/xoops2/>

バイオテクノロジーとMEMSに代表される半導体技術との融合

半導体技術をバイオテクノロジーと融合させることによって次世代型バイオチップを世に送り出すことを目的として、バイオ、材料、環境をキーワードにした研究ユニットを構築し、世界トップクラスの研究成果の創出、教員、学生の国際化を推進しています。

バイオセンサー・バイオデバイスの開発	電気科学的癌診断デバイス(九州歯科大学との連携事業) 血漿中の蛋白質分離マイクロデバイス
バイオマテリアル・治療技術の開発	てんかん波抑制電気刺激 歯科用有機・無機ハイブリッド材料
バイオイメージング技術の開発	インプラント施行補助シミュレーション(九州歯科大学との連携事業) 凍結技術を用いた生体分子観察

バイオメディカルインフォマティクス研究開発センター
センター長(併)情報工学研究院 生命情報工学研究系 教授
倉田 博之 <http://www.bmirc.kyutech.ac.jp/>

生命のしくみのコンピュータによる再現と医療イノベーション

デザイン思考・システム思考を用いて、医学部、病院、企業、行政と連携し、世界トップレベルの医療イノベーションを推進し、人類の健康と福祉に貢献します。

研究のロードマップ

	バイオインフォマティクス	システムバイオロジー	バイオエンジニアリング
短期・中期的目標	ゲノムワイド関連研究 病原体ゲノムの進化系統解析 伝染病の伝播解析 医療データ解析	生体分子・細胞、臓器のモデル がんにおける多剤併用療法の最適化 薬剤とウパワク質の相互作用シミュレーション	ドラッグデリバリーシステム 医用画像処理 コミュニケーション支援システム、BCI
長期的目標	ヒトのコンピュータモデル	コンピュータ支援による治療、介護福祉システム	センサ行動認識

戦略的研究ユニットについて

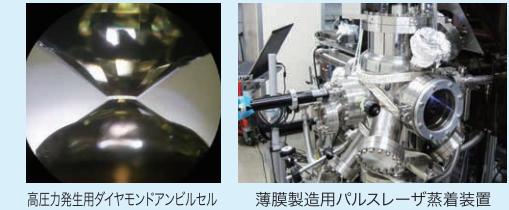
次世代を担う若手を中心に、研究活動の強化により、核となる革新的な研究拠点を形成するため、部局を超えた組織的な研究ユニットがイノベーション推進機構内に設置されました。将来的には5ユニットが設置される予定です。産学連携・URA領域では、企業との共同研究や技術移転等について、重点的な支援を行います。

高温超伝導体のさらなる転移温度向上を目指した物質設計ユニット

代表:美藤正樹 教授

超伝導研究に関する先駆的かつ特色のあるシーズをもとに、高温超伝導体の機能性の向上、超伝導発現機構の解明、戦略的な新奇超伝導物質探索、物性評価技術の向上、高温超伝導体創出のための設計指針の提案などの研究を推進し、超伝導転移温度向上という物理学の難題に取り組みます。

- ① 高温超伝導体のバルク材料、薄膜の合成及び評価(物質工学研究系 松本・堀出・アロク)
- ② 新奇超伝導物質合成(電気電子工学研究系 松平・基礎科学研究計 田中)
- ③ 高温超伝導体の高圧物性評価(基礎科学研究系 美藤)
- ④ 高温超伝導体の精密電気抵抗測定(基礎科学研究系 出口)
- ⑤ 高温超伝導体に対する第一原理計算(基礎科学研究系 中村)
- ⑥ 高温超伝導機構の基礎理論(基礎科学研究系 渡辺)



MSSCなどを高度活用した未来創生型環境・バイオアプロpriエイトテクノロジー開発若手研究ユニット

代表:前田憲成 准教授

九州工業大学の海外教育研究拠点であるMSSCなどを高度に活用して、マレーシアアトラ大学をはじめとする海外の研究大学と連携を図り、生物工学、環境バイオテクノロジー、バイオマテリアルなどの分野において、未来の社会実装につながるアプロエイトテクノロジー(適正技術)の開発を行います。



スマートライフケア社会創造ユニット <http://smartlife.care/>

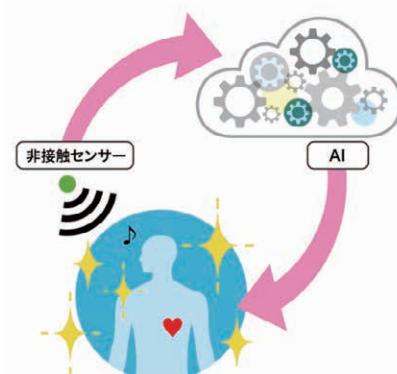
代表:柴田智広 教授

限られた人的資源の下で、生活の質や個人の尊厳も考慮した最適な予防医療や介護予防を実現するため、ICT/IoTやロボティクスを最大限に活用するスマートライフケア社会の創造を目指します。種々のセンサから得られるビッグデータを解析し、人々への行動変容支援や業務担当者の最適なプロセス管理支援などをを行うアルゴリズムや情報システムを、現場で実証的に評価しつつ研究開発します。



06

トピックス Topics



地域イノベーション・エコシステム形成プログラムの実施

~アンビエント・ヒューマン・センシングでアクティブシニア活躍都市の実現を~
九州工業大学は北九州市と共同で文部科学省補助事業「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」に平成28年度に採択されました（事業規模1.4億円／年、5年間予定）。本事業は、大学のシーズをもとにイノベーションをおこし、社会に成果を還元するための日本型エコシステム形成を目指すものです。九州工業大学では、高齢者が生きがいをもって、元気に長生きできるよう、自然な環境（Ambient）の中でひとつひとつの生活を優しくみまもる（Sensing）世界を実現するためのIoTソリューションを生み出すことを目指します。

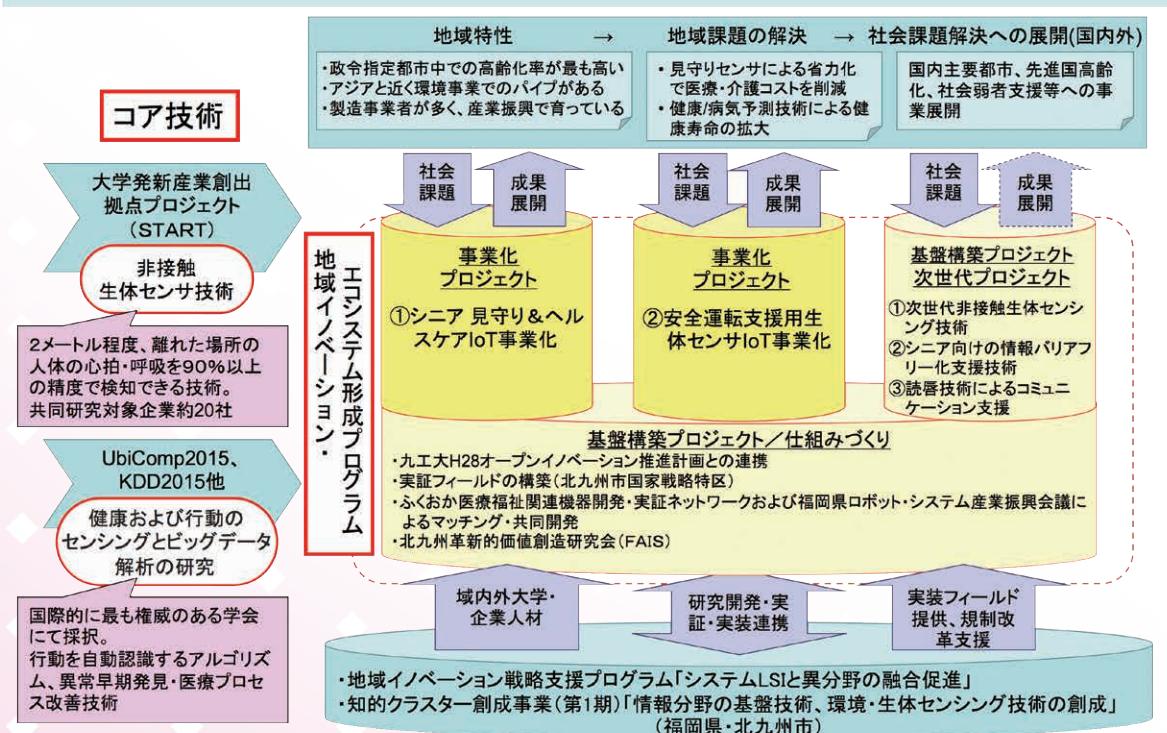
政令指定都市の中で最も高齢化の進む北九州市において、佐藤教授が持つ最先端の非接触生体センサー技術と井上准教授が持つ行動認識／ピックデータ解析技術を用い、①シニア見守り＆ヘルスケアIoT、②安全運転支援用生体センサIoT分野において革新的なIoTソリューション“アンビエント・ヒューマン・センシング”を産学官金一体となって世界に展開していきます。

プロジェクトを推進するにあたって、事業プロデューサーを外部から招聘し、事業プロデューサーを中心に、URA、CDをはじめ外部の専門家による事業プロデュースチーム体制を整えました。

イノベーション推進機構は、プロジェクトの運営事務局として、地域と連携し、研究成果をもとに、革新的かつ継続的な事業化により地域イノベーション創出を図るために産学連携支援を行っていきます。

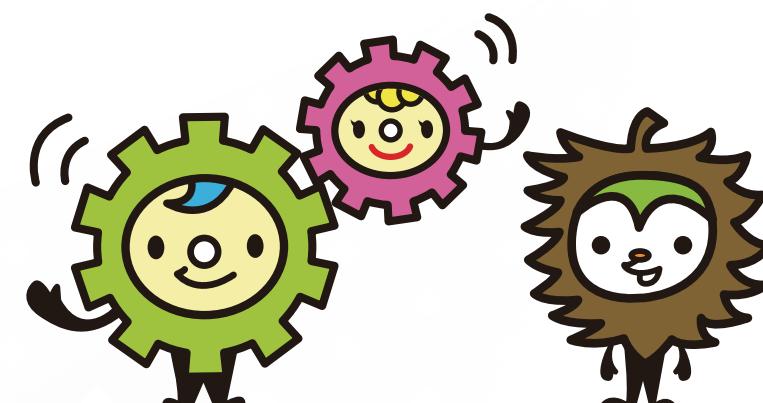
拠点計画「IoTによるアクティブシニア活躍都市基盤開発事業」

政令都市の中で最も高齢化が進む北九州市の特性を活かし、独自性の高い「非接触生体センサ」と実績豊富な「センシングデータ解析技術」の組合せで、都市に住む高齢者が「より安全に」「快適に」「やりがいをもって」生活するためのIoTソリューションを実現する



産学パートナーシップ創造展に出展しました

平成28年8月25、26日に東京ビッグサイトで開催された文部科学省主催の『産学パートナーシップ創造展』に、全国20大学の1つに選ばれて出展を行いました。この展示イベントは、イノベーション創出に向けて、今後の産学連携による共同研究の本格化を図るべく、また、個別の大学による取組だけでなく、アカデミア全体として取り組むことによる様々な相乗効果を得ることを目的に初めて開催されたもので、26日には、早瀬修二副学長（研究・産学連携担当理事）、工学研究院の大村一郎教授が、本学の「組織」対「組織」の本学的産学連携に関する取組を「オープンラボ構想：企業連携を加速する成果共有型研究スキーム」と題しプレゼンテーションを行いました。



九州工業大学技術交流会（キューテックコラボ）のリニューアルについて

九州工業大学技術交流会（キューテックコラボ）は、九州工業大学が保有する知的・人的・物的資源の活用を通して、産業界をはじめとする地域社会との連携交流活動を推進すること等を目的に、平成19年3月に設立されました。

会員数は、法人会員と個人会員を合わせて約600人を数え、月例セミナー & 交流会である三木会をはじめ、産学官交流のプラットフォームとして活発に活動を行って参りました。この度、発足から10年を迎えたことを機に、活動内容をリニューアルします。

<リニューアル後のキューテックコラボの活動について>

●三木会では九州工業大学の技術シーズ、研究内容の発信を行います

三木会では、これまで、産・官・学の様々な立場の方々に講師を務めていただき、人的交流、ネットワークの拡大を図って参りました。今後は、次のステージとして、具体的な産学連携のきっかけづくりに重点をおきます。具体的には、九州工業大学の研究者を講師に、地域の皆様にご活用いただきたい技術シーズや、連携したい研究内容のご紹介を中心に行います。講演後には、座談会を行い、双方向でのコミュニケーションを図ります。また、5月、7月、9月、11月の隔月開催とし、間の期間を活用して、三木会に参加いただいた方々との情報交換に取り組んでいきます。

●事業開発ビジネス講座を開催します

地域企業の競争力強化支援と産学官連携の推進を図ることを目的に開催している「事業開発ビジネス講座」は、例年どおり1~3月に開催します。事業開発ビジネス講座では、産・官の方々に講師を務めていただき、新しいビジネスのヒントや、新事業展開に活用できるツールのご紹介等を行っていきます。

●会員企業との交流を積極的に進めます

事務局（九州工業大学）から、会員企業の皆様のところへお伺いし、積極的な情報交換を進めます。



会員企業訪問、企業との情報交換

<役員について>

キューテックコラボでは、産学官連携に積極的な地域企業の皆様に、役員を務めて頂いておりました。今回のリニューアルを機に、役員制度を解消いたしました。発足時から長きにわたり会長を務めていただいた鶴田会長（環境テクノス株式会社代表取締役会長）をはじめ、これまで役員を引き受けて頂いた皆様、ありがとうございました。

07

事業
活動報告

Activity report

九州工業大学技術交流会（キューテックコラボ）

九州工業大学技術交流会（キューテックコラボ）は、平成19年3月に発足し、産学官連携のプラットフォームとしての活動に取り組んでいます。会員数は、法人会員、個人会員をあわせて約600名を数えます。

平成28年度も、月例セミナー&交流会「三木会（さんもくかい）」の開催や会員向けメールマガジン配信等の情報提供事業などを継続的に実施しました。また、大学の研究室が主催する「研究会」活動支援も引き続き行い、平成28年度も「粉体工学研究会」が定期会合を開きました。

「三木会（さんもくかい）」の開催

地域の皆様との連携をさらに深めるため、産学官の関係者の交流の場として、平成17年度から毎月第三木曜日に実施している「三木会」を引き続き開催しました。

平成28年度は、キューテックコラボのリニューアルを見据え、九州工業大学の研究者を講師としました。また新しい試みとして、従来の交流会にかえて座談会を開催しました。座談会では、参加者と講師の間で積極的な議論が行われた場面もあり、より深い交流につながりました。

●「三木会（さんもくかい）」の開催状況

日 時	テーマ	講 師	
		所属・役職	氏 名
平成28年4月21日	九州工業大学の更なる発展に向けて	九州工業大学 学長	尾家 祐二 氏
平成28年5月19日	組込みシステム開発の概要と効率化の手法	九州工業大学大学院情報工学研究院 機械情報工学研究系 准教授	田中 和明 氏
平成28年6月16日	地域づくりの実践・研究の現場から	九州工業大学大学院工学研究院 建設社会工学研究系 教授	吉武 哲信 氏
平成28年7月21日	光を使って殺菌・防かび・抗ウイルスを実現する夢の材料の開発と商品展開	九州工業大学大学院工学研究院 物質工学研究系 教授	横野 照尚 氏
平成28年9月15日	金属鉄を用いたマグネタイド生成による排水処理	九州工業大学大学院工学研究院 物質工学研究系 准教授	高須 登実男 氏
平成28年10月15日	新エネルギー・産業技術総合開発機構理事		福田 敦史 氏
	九州工業大学大学院工学研究院 機械知能工学研究系 教授		大屋 勝敬 氏
	九州工業大学大学院工学研究院 先端機能システム工学研究会 教授		竹澤 昌晃 氏
	九州工業大学大学院工学研究院 電気電子工学研究系 教授		大村 一郎 氏
	九州工業大学大学院工学研究院 機械知能工学研究系 教授		平木 謙儒 氏
	産業用金属3Dプリンタを応用した金型の高機能化について	九州工業大学大学院情報工学研究院 機械情報工学研究系 助教(当時)	是澤 宏之 氏
	(事業開発ビジネス講座) 大学発ベンチャー・産学連携事例	合同会社ティクプラス 代表社員	三浦 重信 氏
平成29年1月19日	(事業開発ビジネス講座) 環境テクノス株式会社 代表取締役会長	鶴田 晓 氏	
平成29年2月16日	(事業開発ビジネス講座) 海外・新事業展開	株式会社NCBリサーチ＆コンサルティング 事業コンサル部国際コンサル室 マネージャー	佐々木 治彦 氏
平成29年3月16日	(事業開発ビジネス講座) 研究資金獲得(助成制度の説明)	株式会社オーケマ 取締役副社長	大隈 賢一郎 氏
		九州経済産業局、NEDO、JST、北九州市、FAIS	



4月の三木会で講演する学長



会場の様子

● 研究会活動

九州工業大学技術交流会（キューテックコラボ）では、会員企業、研究室等が主催する研究会を行っています。今年度は、分野、テーマ別に次の研究会が活動しました。

日 時	名 称	活動内容	場 所	担当教員
平成28年8月2日	粉体工学研究会	2016年度第1回 西日本懇話会	九州工業大学 図書館AVホール	梅景教授 他
平成28年12月19日	粉体工学研究会	2016年度第2回 西日本懇話会	九州工業大学 図書館AVホール	梅景教授 他

事業開発ビジネス講座

九州工业大学では、地域企業の競争力強化を支援し、産学連携の更なる推進を図るために、平成17年度から公開講座として、広く社会人を対象とした「事業開発ビジネス講座」を毎年開催しています。例年、西日本シティ銀行に共催を頂いています。

平成28年度の事業開発ビジネス講座は、「産学連携によるイノベーション、ベンチャー創出力の強化、新事業展開」をテーマとしました。政府の成長戦略において、本格的な産学連携の実施、世界に通用するベンチャー企業の創出等が掲げられる中、改めて産学連携とベンチャーに注目したものです。

開催の概要

日 時	テ マ	演 題・講 師	
		演 題	講 師
平成29年1月19日(木)	大学発ベンチャー・産学連携事例	竹短纖維・ナノ織、安全な竹水蒸気抽出液の開発と事業化を目指す大学発ベンチャー	合同会社テイクプラス 代表社員 三浦 重信 氏
		産学連携によるビジネス創出	環境テクノス株式会社 代表取締役会長 鶴田 晓 氏
平成29年2月16日(木)	海外・新事業展開	中国ビジネスの潮流を読み解くポイント～これから中国とどう向き合うか～	株式会社CBサーチ&コンサルティング 事業コンサルティングコンサルタント 佐々木 治彦 氏
		オークマの中国事業 ～海外大手と連携した中国展開～	株式会社オークマ 取締役副社長 大隈 賢一郎 氏
平成29年3月16日(木)	研究資金獲得(助成制度の説明)	九州経済産業局、NEDO、JST、北九州市、FAIS	



第1回で講演する鶴田氏

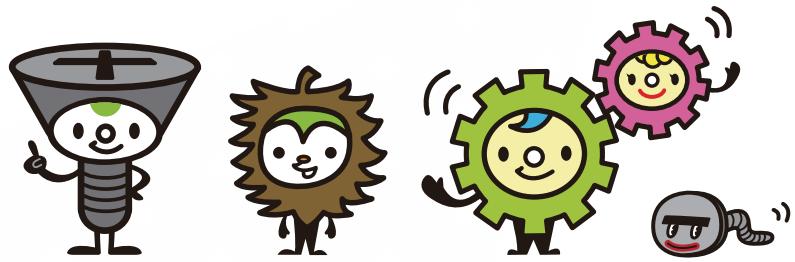


会場の様子

知財セミナー

平成28年12月9日、本学卒業生で 安川電機(株)技術開発本部 知的財産担当技師長及び、一般社団法人福岡県発明協会会长兼事務局長の石橋一郎氏を講師に招聘し、「特許制度の歴史を見据えた知的財産の今後の展開と対応」というテーマで知的財産セミナーを開催しました。石橋氏は、知的財産人材の育成、知的財産権制度の普及・啓発に貢献されており、「平成28年度知財功労賞 特許府長官表彰」を受賞されています。

セミナーでは、特許制度の現在の形の起源となった第1次産業革命期のイギリスの特許制度・事例が紹介され現代の視点で見つめ直すと共に、TPP協定の知的財産関係項目への日本の対応も含めた最新の状況を踏まえ、知財の今後の展開と対応について説明がなされました。現在は第4次産業革命が標榜され、AIやIoT、ビッグデータなどを用いたイノベーションが期待されています。しかしながら、そのような新技術を保護する特許についてはプロパテントとアンチプロパテントがせめぎ合い、1980年頃から続いたプロパテント時代が曲がり角に来ているのでは、と言われており、そのような中、事業戦略とリンクした権利取得と活用戦略が必要である等、産学連携関係者にとって大変啓発に富むセミナーで多くの熱心な聴衆がありました。



NEDO フォーラム

平成 28 年 10 月 17 日（月）、九州工業大学 百周年中村記念館において、「九州工業大学 NEDO シンポジウム」を開催しました。

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）は、「エネルギー・環境問題の解決」及び「産業技術の強化」に取り組む日本最大級の公的研究開発マネジメント機関で、九州工業大学の教育研究活動における重要なパートナーです。今回のシンポジウムでは、これまで進めてきた連携プロジェクトの紹介を行い、九州工業大学の取組の情報発信を行いました。

当日は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の福田理事から NEDO の取組についてご紹介いただき、九州工业大学からは 4 名の研究者が、NEDO や産業界との連携プロジェクトについて紹介しました。参加者からは、「NEDO 事業全体を理解できた。」「九州工业大学が NEDO 事業を多分野に渡って数多く実施していることがよく分かった。」「研究背景も含め、位置付けや技術についての目標等もわかりやすい説明でした。」など、好評の感想が数多く寄せられました。

『イノベーション創出に向けた NEDO の取組』



国立研究開発法人
新エネルギー・産業技術総合開発機構
理事 福田 敦史 氏

『九州工业大学におけるNEDO事業の紹介』

大学院工学研究院機械知能工学研究系 教授 大屋 勝 敬 氏
大学院工学研究院先端機能システム工学研究系 教授 竹澤 昌晃 氏
大学院工学研究院電気電子工学研究系 教授 大村 一郎 氏
大学院工学研究院機械知能工学研究系 教授 平木 講儒 氏



講演する大屋教授



会場の様子

URA カフェ「ザ・科研費 2016」

URA は毎年、研究者の基礎研究費として重要な位置づけにある文部科学省科研費獲得に向けて支援活動を行っています。2016 年度も科研費獲得に経験豊富な 3 人の講師のご講演を通して、研究計画調書作成における新たな気付きを得るセミナーを開催しました。

講 師	テ マ	講 師 紹 介 ・ 講 演 内 容
筑波大学芸術系 田中 佐代子 氏	申請書作成上の ビジュアルデザインルールについて	ビジュアルデザインを専門とする研究者でデザイナー。主な著書は「PowerPointによる理系学生・研究者のためのビジュアルデザイン入門」。
筑波大学医学医療系 三輪 佳宏 氏	『通りそう?』を『通る!』にするには?	通りそう、なのにダメだった申請書。いったいどこをどうすれば通ることができるのでしょうか? これまで幾多の喜びと悲しみを経験する中で気づいたことを書き溜めたメモを紹介します。一緒に考えてみませんか?
筑波大学医学医療系 小林 麻己人 氏	ワークショップ 「実例を用いた科研費申請書の改善」	遺伝子発現好きな分子発生生物学者。米国 NIH で出会ったゼブラフィッシュを愛す。今回は田中先生、三輪先生のお話とともに、申請書をどう改善していくか考えていきます。

日本学術振興会 特別研究員制度学内説明会

2016 年度よりあらたに、博士課程学生を対象とした助成事業である日本学術振興会特別研究員の申請に対して支援活動を開始しました。具体的には、制度の説明および採用研究者の経験談を交えた交流を実施しました。



会場の様子

一般財団法人工業所有権協力センター 平成 28 年度 大学知財活動助成事業報告

九州工業大学では、九州大学、熊本大学とともに、九州地域内の他の大学に呼びかけ、産学連携部署、知的財産関連部署のネットワーク化（KTC（Kyushu Technology Collaboration））を進めています。

この KTC の活動の一環として、九州地域社会のニーズと大学の知との融合を通じて、九州地域における産学連携を推進する「複数の大学連合が協働して地域の中小企業の顕在・潜在的ニーズに対応し、技術移転や産学連携を推進するモデルの構築」を取り組んでいます。九州工業大学が申請代表者となって、平成 27 年度から一般財団法人工業所有権協力センター（IPCC）の助成を受けて進めており、①各大学と合同での新技術説明会・技術相談会や、②各大学の知財担当者・産学連携コーディネータのスキルアップを図るための研究会（勉強会）等を行っています。

平成 28 年度は、2回の大学合同新技術説明会・技術相談会を開催しました。1回目は、北九州市において、北部九州自動車産業アジア先進拠点推進会議（事務局：福岡県商工部自動車産業振興室）と連携し、自動車関連産業をテーマに行いました。九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会（略称：SIIQ）が平成 28 年度に取り組んでいた別のマッチング事業とも連携し、SIIQ 事業のシーズ発信会と同日、同会場開催することで、相乗効果も狙いました。

2回目は、福岡市において、福岡県が事務局をつとめる九州・山口ベンチャーマーケットと連携し、ベンチャー企業が興味を示しそうな特許シーズを取り上げました。

「自動車関連産業」や「ベンチャー企業が興味を示しそうな内容」等の具体的テーマの設定、関連する団体との連携や他の事業との相乗りにより、ニーズ・シーズのマッチングの確度は向上したと考えています。

参加大学は、九州工業大学、九州大学、熊本大学の他に、大分大学、鹿児島大学、山口大学、北九州市立大学、福岡大学の5大学が参加しました。各大学から選りすぐりの23の特許シーズを発表することができ、各大学の知財担当者や産学連携コーディネータが集結して、それぞれの発表シーズのフォローや技術相談に対応しました。

知財担当者・産学連携コーディネータの研究会（勉強会）についても、「KTC 産学官連携研究会」と銘打ち、2回開催しました。

1回目は福岡市において、事前に参加者からディスカッションのテーマの募集を行い、全員参加型のディスカッション形式で実施し、「組織」対「組織」の本格的な産学連携への各大学の取組」「ベンチャーとの付き合い方等（ライセンス対価設定、サポート（優遇）等）」等をテーマに、活発な議論を行いました。2回目は、熊本市において、山口大学知的財産センターセンター長兼山口 TLO 代表取締役社長の佐田洋一郎先生を講師に招聘し、大学の知的財産の管理活用に焦点を絞ったスクール形式の研究会を開催しました。

こうした大学の知的財産、産学連携関連部署のネットワークは、各大学の先進事例の共有やスキル向上に非常に有効であり、平成 29 年度以降も継続して取り組んでいく予定です。



大学合同新技術説明会・技術相談会

第1回 テーマ「自動車関連産業」

連携機関：北部九州自動車産業アジア先進拠点推進会議

参加大学：九州工業大学、九州大学、熊本大学、大分大学、鹿児島大学、北九州市立大学、福岡大学

発表シーズ：13件

● 九州工業大学発表シーズ

焼入れ硬化性金属板の溶接方法

(工学研究院 物質工学研究系 北村 貴典 准教授)

金属材料表面へのクラッド層形成方法

(工学研究院 物質工学研究系 山口 富子 准教授)

※SIIQ主催「大学シーズ発信・マッチング会」と同時開催

第2回 テーマ「ベンチャー企業向けシーズ」

連携機関：九州・山口ベンチャーマーケット（福岡県）

参加大学：九州工業大学、九州大学、熊本大学、大分大学、山口大学、鹿児島大学、北九州市立大学、福岡大学

発表シーズ：11件（うち1件はパネル展示）

● 九州工業大学発表シーズ

カメラが一つで何でもタッチパネル！

(工学研究院 電気電子工学研究系 張 力峰 准教授)

非接触型セキュリティシステムに展開可能な自己装着カメラを用いた指文字認識システム

(工学研究院 機械知能工学研究系 タン ジューカイ 准教授)

※「九州・山口ベンチャーマーケット 2017」と同時開催



SIIQ 事業

九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会（愛称 SIIQ）が実施した「九州の基幹産業と大学シーズ・知財による成長分野展開（九州モデル）創出事業」（平成28年度中小企業知的財産活動支援事業費補助金（地域中小企業知的財産支援力強化事業））に協力し、特許を中心とした技術シーズ情報の発信等、以下の4つの事業を行いました。

①技術シーズ票の作成

今後、成長可能性が高いと考えられる分野（環境・エネルギー、医療・ヘルスケア（健康）、農林水産・食品、ICT・IoT等情報工学分野）を中心に、九州工業大学が有する特許について技術シーズ票を作成しました。また、KTC（Kyushu Technology Collaboration）のネットワークを活用し、九州工業大学から九州内の他大学にも技術シーズ票の提供を呼びかけ、全部で50件を超えるシーズが集まりました。

②大学シーズ発信・マッチング会

集まったシーズの中から選出したシーズを発表する「大学シーズ発信・マッチング会」が福岡と鹿児島で開催され、九州工業大学からも5シーズの発表を行いました。福岡会場は、11月9日（水）に北九州イノベーションギャラリーで行われ、KTC主催で開催された「大学合同新技術説明会・技術相談会」と同日開催となりました。

シーズ名	研究者
福岡会場 11月9日(水) 会場:北九州イノベーションギャラリー	
HW-CVD法により生成した原子状水素による洗浄(還元)及び原子状水素吸着除去方法	工学研究院電気電子工学研究系 和泉 亮 教授
MMe-ELISAによる歯周病関連サイトカインの検出	工学研究院物質工学研究系 竹中 繁織 教授
物体検出方法 電動カート(台車)	工学研究院先端機能システム工学研究系 脇迫 仁 准教授
鹿児島会場 11月29日(火) 会場:鹿児島大学郡元キャンパス	
小型電子機器冷却用ヒートパイプ	工学研究院機械知能工学研究系 長山 暁子 准教授



③若手人材ワークショップ～九州の企業・大学若手人材による产学連携ネットワーク構築～

将来の产学連携促進を目的に、企業の若手人材と大学の若手研究者等による交流イベントとしてワークショップが開催されました。九州工業大学からは、マイクロ化総合技術センターの研究者が参加したほか、ワークショップ2日目には、参加者に同センターを見学してもらいました。

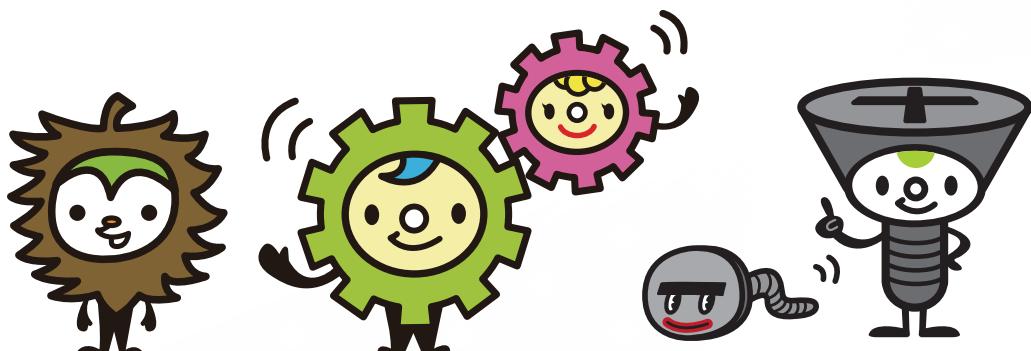
④未来人材育成に向けた講演会

次代を担う学生を対象に、九州地域のエレクトロニクス・半導体関連産業について理解を深めるための講演会が開催され、九州工業大学からも多数の学生が参加しました。

開催の概要

日 時	平成28年10月13日(木) 18:00～19:30
場 所	九州工業大学戸畠キャンパス
講 師	株式会社ピーエムティー 経営企画室 室長 三宅 賢治 様
演 題	半導体ものづくりイノベーション～ミニマルファブのコンセプト～

SIIQとは、今後も連携を図り、ニーズとシーズのマッチング等を進めていく予定です。



EVENT CALENDAR イベントカレンダー

6月

●九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会総会・展示会に出展

九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会（通称：SIIQ）の平成28年度定期総会にあわせて展示会が開催され、本学のマイクロ化総合技術センターが出展しました。

●西日本製造技術イノベーション 2016 に出展

西日本総合展示場（北九州市）で開催された「西日本製造技術 2016」に、本学宇宙環境技術ラボラトリーから超小型人工衛星の模型展示「宇宙に耐えるモノづくり」をテーマにした宇宙環境試験設備の出展を行いました。また、特別展示の CFRP（炭素繊維強化プラスチック）の世界展では、大学院工学研究院の宇宙システム研究室から「研究用の CFRP 製試作タンク」を、同じく大学院工学研究院の奥山圭一教授の研究室から「超小型の深宇宙通信実験機〈しんえん2〉」を紹介しました。

7月

●環黄海学長フォーラムに参加

8月

●イノベーションジャパン 2016 –大学見本市–に本学研究者が出演

東京ビックサイトで開催された「イノベーションジャパン 2016」に本学から5ブースが出演しました。2日間を通して本学研究者と来場者の間で熱心な意見交換があり、会場全体も大盛況でした。

テーマ	発表者
超小型衛星用真空アーケ推進機	大学院工学研究院 電気電子工学研究系 准教授 豊田和弘
無線LAN規格IEEE802.11を用いた 産業用無線同期通信システム	大学院情報工学研究院 電子情報工学研究系 教授 尾知 博
円筒凸レンズを応用した高精度点滴量計測法と その試作機	大学院情報工学研究院 機械情報工学研究系 助教 カチヨーンルンルアン パナート
感情認識技術	イノベーション推進機構 産学連携・URA領域 教授 佐藤 寧
生活習慣病予防を目的とした簡易血液粘度測定装置	マイクロ化総合技術センター 准教授 坂本憲児

10月

●エコテクノ2016 –エネルギー先端技術展– に出展

西日本総合展示場（北九州市）で開催された「エコテクノ2016」に大学院工学研究院物質工学研究系の高須登実男准教授の研究室、坪田敏樹准教授の研究室、大学院工学研究院機械知能工学研究系の谷川洋文助教の研究室が出演を行いました。また、高須准教授は「金属鉄を用いたマグネタイト生成による排水処理」、坪田准教授は「竹を原料とした高付加価値材料の段階製造」、谷川助教は「自己調湿型固体高分子形燃料電池」をテーマに、シーズ発表を行いました。



11月

●九州工業大学 NEDO シンポジウムを開催

●ひびしんビジネスフェア2016に出展

●Matching HUB Kanazawa2016 に出展

北陸先端科学技術大学院大学が主催する「Matching HUB Kanazawa2016」に出展しました。他地域でのマッチングの取組等について把握するとともに、本学の技術シーズを紹介しました。

●平成 28 年度第1回 KTC 大学合同新技術説明会・技術相談会を開催

●知的財産事業化ワークショップ（主催：株式会社 YMFG ZONE プランニング）
大学院工学研究院建設社会工学研究系 陳 沛山 教授が参加。

●大分県工業連合会の「ものづくり大分産学交流会」で奥山教授が講演

大分県工業連合会が主催する「ものづくり大分産学交流会」で、大学院工学研究院先端機能システム工学研究系の奥山圭一教授が「炭素繊維で強化した熱硬化樹脂と熱可塑樹脂の航空宇宙機への適用」と題して講演しました。

12月

- 知的財産セミナーを開催
- 新技術説明会（東京 JST 本部）に本学研究者が出演
九州工業大学 新技術説明会（平成 28 年 12 月 22 日 JST 東京本部）

タイトル	発表者
無人搬送車走行ガイドシステム	大学院工学研究院 電気電子工学研究系 助教 楊 世淵
高加工性と高耐食性を併せもつ高クロム鉄合金	大学院工学研究院 物質工学研究系 教授 恵良秀則
産業用無線LANネットワークにおける高精度時刻同期	大学院情報工学研究院 電子情報工学研究系 客員准教授 長尾勇平
Robot OS (ROS)とFPGAを融合したロボットや自動車のための新しい計算機システム	大学院生命体工学研究科 人間知能システム工学専攻 准教授 田向 権
昇降式コイルを適用した連続鋳造における新たな気泡除去技術	大学院情報工学研究院 機械情報工学研究系 准教授 河野晴彦
同軸ケーブル網を用いたMIMO通信ネットワーク	大学院情報工学研究院 電子情報工学研究系 客員准教授 長尾勇平
乱数生成器が不要なニューラルネットワークの回路化の方法	大学院生命体工学研究科 人間知能システム工学専攻 准教授 田向 権
起立動作誘導システム	大学院生命体工学研究科 人間知能システム工学専攻 教授 和田親宗
電気自動車利用の負荷平準化と地理情報利用の太陽光発電量評価	大学院工学研究院 電気電子工学研究系 教授 三谷康範

1月

- 事業開発ビジネス講座（第1回）を開催

2月

- 事業開発ビジネス講座（第2回）を開催
- 平成 28 年度第2回 KTC 大学合同新技術説明会・技術相談会を開催

3月

- 九州カーエレクトロニクス展示商談会 in 刈谷に出展
愛知県刈谷市で開催された自動車関連産業向けの展示会「九州カーエレクトロニクス展示商談会 in 刈谷」に、大学院工学研究院機械知能工学研究系のタンジュークイ准教授が「画像から歩行者・自転車・車の動きを認識する技術」を出展しました。
- 事業開発ビジネス講座（第3回）を開催
- 広域技術マッチングフェア（主催：株式会社 YMFG ZONE プランニング）
大学院生命体工学研究科生体機能応用工学専攻 西田治男教授が出展しました。

08

九工大の装置、 機器利用案内

Apparatus and
equipment Works

九州工業大学装置、分析・測定機器等の利用案内(学外の方も利用できます)

本学が保有している大型装置、分析機器、測定機器等について、学外の方も利用できます。問合せ先、申し込み、使用料金等の詳細は次のURLを参照下さい。

依頼測定の受け入れと装置一覧

<http://www.kyutech.ac.jp/research/request.html>

機器分析センター（所在地：戸畠キャンパス）

各種の高性能大型分析機器等により、分析、測定及び解析等が行えます

http://www.kitcia.kyutech.ac.jp/HP/src/GUIDANCE/GUIDANCE_01.html

宇宙環境技術ラボラトリー（所在地：戸畠キャンパス）

超小型衛星の開発に必要な振動試験、熱真空試験、熱衝撃試験など様々な環境試験、測定及び解析が行えます。

http://cent.ele.kyutech.ac.jp/activity_j.html

マイクロ化総合技術センター（所在地：飯塚キャンパス）

集積回路や半導体デバイスの設計製造等に必要な設計・製造・評価・観測などが行えます。

http://www.cms.kyutech.ac.jp/know/HP/price_list.html

先端金型センター（所在地：飯塚キャンパス）

金型試料の加工、測定及び試験などが行えます。

<http://cim.mse.kyutech.ac.jp/kanagata/index.html>

※トップページ ⇒ センター概要 ⇒ センター利用





つなげる力が創る未来



つなげる力が創る未来

